

福祉健康科学部

所属・職位	福祉健康科学部 福祉健康科学科 社会福祉実践コース・講師	
氏名	工藤 修一 (Kudou Syuichi)	
取得学位	修士 (社会福祉学)、日本福祉大学、1997年3月	
SDGs目標	  	

研究分野	高齢者福祉・地域ケア
研究キーワード	介護報酬、モラルハザード、老人保健施設
研究内容	<p>1 効率的な介護サービス提供システムの構築 要介護者の急激な増加などにより介護費用が増大している。総じて要介護者数はコントロールに大きな限界があり、よって、焦点は要介護者一人当たりのコストコントロールとなる。適正な介護報酬の設定やサービス事業者のモラルハザード防止の観点などから、効率的な介護サービスの提供システムの考案を試みている。</p> <p>2 介護保険下の老人保健施設の新たなあり方 老人保健施設は家庭復帰を目的とした施設であるが、現在では長期入所者が多数を占めている。制度創設時は、我が国の医療・福祉施設で唯一理学療法士、もしくは作業療法士の配置が義務付けられていたことが大きく影響し、いわゆる回復にある患者も少なからず入所していた。しかし、その後、一般医療機関へのリハ職の配置が大きく進展し、応じて老人保健施設の入所者はプラトーの方となった。その結果、機能回復しての家庭復帰者が大きく減少し、老人保健施設の存在意義が問われている。こうした現状認識のもと、高齢者ケアの政策動向を踏まえて、老人保健施設の新たなあり方を検証している。</p> <p>3 過疎地域の福祉・介護サービスの提供システム 近年、過疎地域のサービス事業者の撤退が相次いでいる。原因はシンプルで、不採算性にある。他方、こうした地域ほど障害者や高齢者などの生活課題は多様で、また、年々深刻化している。解決方法のひとつとして、社会福祉連携推進法人の活用が考えられ、この実効可能性を探っている。</p>
研究業績・アピールポイント	<p>(共著)『単身高齢者の見守りと医療をつなぐ地域包括ケア』(中央法規,2020) (単著)「地域を支えるソーシャルワークのあり方—ディレンマ・有用性・教育課題—」(『地域リハビリテーション』4 (3) ,2009)</p> <p>全国国民健康保険診療施設協議会：小規模自治体における地域包括支援センターの効率的な取組に関する調査研究事業委員 (2021)</p>